



No.1 2021.4.8

新入園のみなさま、このたびはご入園おめでとうございます。たくさんある幼稚園・保育園の中から、ぴっぴを選んでいただきありがとうございます。そして、まつぼっくり、くり、おくりのみなさま、ぴっぴでの新しい年度がはじまりましたね。あたらしいどんぐりさんをお迎えして、新たな気持ちでの一年のスタートですね。今年もよろしく願いいたします。

コロナを経て、本当にいろんな事が変わりました。ニューノーマルという言葉もすでにあまり聞かなくなりつつある程、ニューノーマルが当たり前になっています。社会・経済・人々の順応力ってすごいなあと改めて感じたこの1年でした。

① 僕が尊敬する会社の一つ、“スノーピーク”の会社のミッションは「人生に、野遊びを」です。“経済成長によって失われた人間性を、野遊びによって取り戻す”と謳っている同社の方針は、上場企業としてはかなり尖っていると数年前から感じていました。新潟でクライミング用のギアを作っていた会社が、キャンプ用品に拡大し、現在は野遊び全般に活動範囲を広げています。もちろん、コロナの中でもファンに支持され続けています。

野遊びを取り戻さなければならないのは日本だけではないと、一昨年に前社長は単身アメリカ・ポートランドに渡り新たな事業立ち上げに奮闘中、上場している本体は長女に経営を譲りました。彼女はまだ30代前半、たくさんのグラフィックを身に纏い、アーティスト&デザイナーとしても活躍している女性社長は、東証一部社長としてはかなりの異色な存在です。コロナを経て僕が感じていることは、「やっぱりスノーピークは早かった」という印象です。ポートランドにいても、オンラインミーティングでつながっていれば良い。経営者は、アートやデザインでも活躍できる。人間性の回復が会社の存在意義である。カッコいいですね。

そんなスノーピークの企業活動の中心になっているのは、キャンプです。経営ミーティングでもキャンプする、顧客ともキャンプする、遊びでもキャンプする。森の中で、焚き火を囲みながら語らうという体験は、人間を丸裸にします。社会生活の中で、いろいろ纏ってしまっている鎧や、化粧や、体裁をはぎとり、その人を見る・その人を感じる。まさに人間性を回復する最高のツールの一つだと思います。

②「アドラーの心理学」って言葉をコロナの中で聞かれた方も多いのではないでしょうか。僕は専門家でも、専門的に勉強した経験がある訳でもないのですが、あまり深くは語れないのですが、コロナ中に改めて読んでみて心に響いた内容でした。

アドラーは、“人間の全ての悩みは人間関係に起因する”としています。「全て」とかなり強い断定の言葉を使っていますが、人間はとにかく人間関係で悩むということです。その中で、

人間は「共同体感覚」を養う事が重要であるとしています。家庭の様な小さな集団から、学校・会社・地域、そして国・地球全体に到るまで「共同体」として捉える。その中で、自分の利益だけを考えるのではなく、他の人の利益や、コミュニティの利益も考える。考えるというよりは、自然とそれを意識するという様なイメージなんだと思います。

少し前に、アメリカを中心にやたらとマインドフルネスという言葉が流行っていました。そして昨今のサステナビリティの潮流は、全世界の経済活動で全てのベースになりそうな流れになっています。アメリカを中心に発展してきた現在の資本主義への違和感が日に日に大きくなり、欧州を中心に資本主義のあり方を変えていく流れが大きくなっていると感じています。今後資本主義のあり方を巡って、アメリカと中国と欧州の覇権争いが益々如実になってくるんじゃないかと思っています。その中で日本はどうあるべきなのか。日本は覇権争いに加わるべきかと言われるたら No だと思っています。でも、日本で暮らす人々の心の中で昔から育まれている「思いやり」とか「三方良し」とか「助け合い」とかの精神は、必ずやこれからの世界で重要になると感じています。

コロナでコミュニティの断絶が起きました。その結果、コミュニティへの渴望が人々の中で生まれてきています。学生寮や社員寮などの共同生活に対する渴望、飲みニュケーションやオンラインサロンなどへの渴望が目立ってきています。昔の様に、誰かに強制的にコミュニティに入れられるという形ではなく、自らそのコミュニティに身を置く、コミュニティを選択するという事が起きていくと思います。では、そのコミュニティの一員として重要なことはなんなのか。一つの答えは、他の人を信頼できる力だと思っています。

③ ちょっとうちの息子自慢をさせてください。うちの息子はぴっぴを卒園して今年4年生になり、周りのみなさまのお陰ですくすくと育っています。そんな彼が今取り組んでいるのがバレーボールです。きっかけは「ハイキュー!!」という漫画でした。漫画から入り、学校のバレーボール部に最年少で参加して、お兄ちゃん・お姉ちゃんに支えられながら楽しくバレーボールを練習しています。ここまでのストーリーはよくある話といえばよくある嬉しい話なのですが、ちょっと違うのが彼のチームの中での振る舞いや発言です。自分が一番小さいとか、一番上手ではないとか、普通であれば物怖じしてしまう様ないろんな現実を全く気にせず、どんな時もどンドン意見を出しています。チームの仲間に絶対の信頼感を持ちながら、自分には(体力的に)厳しい練習にも必死に喰らい付いていく姿は、我が子ながらとても誇りに思っています。

もう一つ、彼が気が向いた時に取り掛かるのが、アートです。いわゆるデッサンの絵は全く描けないのですが、こんな絵をよく描いてきます。



ぴっぴで描いていた絵から上達したのかと言われると？なのですが、僕としては結構気に入っていて、もっと色々描いてきてくれたらいいのになって思うのですが、そこは「気が向いた時」しか取り組まないみたいです。親としてはもう少しいろんな機会を与えて、彼の制作意欲を高めていきたいと思うんですが。。。デッサンという形式に囚われず、自分の感性をそのまま色に落とすことを続けて行って欲しいなと思います。

3段落にわたって、ぴっぴのホームページに、「ぴっぴの思い」として書いてある以下の文章を、僕なりに少し具体的に表現してみました。

活動時間のほとんどを野外で過ごしていますが、自然遊び、自由遊びを体験することが目的なのではなく、心のつながりを築く場として自然という環境が適していると考えています。2～5歳児が森と仲間と共に様々な体験を通して出会い、関わり合い、育み合う中で仲間への信頼感、自分自身への信頼感を育てています。子どもの力を信じ、育ち合う子どもたちを支える大人の役割も大切だと考えています。

親として子どもをぴっぴに通わせていると、大変な事やつらい事もあると思います。洗濯物も多いですし、怪我もしますし、冬は送迎の親も寒いんです。そんな時は、大変さが先に来て、本来の目的を忘れがちになってしまいます。そんな時は「ぴっぴの思い」を読み返してみてくださいませ。

今年度も1年間、何卒よろしくお願いいたします。

山崎 元

◎山崎元さんのご紹介

理事の元さんはぴっぴを見えないところで支えてくださり、スタッフを温かく応援して下さっています。ぽろぴっぴのランチ隊隊長の元さんが作り出すランチに、子どもたちも大人たちも満たされています。毎回の楽しみ！エプロン姿で、ぽろぴっぴの子どもたちを見守って下さっています。

：眞弓

森林のみちくさ おいしいお話し 4月

アブラチャン

ひらひらの森に春がやってきました。

空気がほんのり黄色く染まるのはアブラチャン。

ピンクの星形のウグイスカグラの花も咲き、足もとには

スマレやカキトオシの花とみつけることができます。



今年度の森林のみちくさたよりは(食)をテーマに

食べられる野草や木の実の紹介と息子と共に

楽しんできた野草料理の紹介をしたいと思います。

ぜひ、みなさんもこのおによりと共にみちくさ散歩楽しんでいただけると

嬉しいです。 : 菜々庵 (くりの阿部柚琉の母です) 1年間よろしくお願ひします。

ウグイスカグラ

藪萱草(ヤブカンゾウ)

5cmほどの若芽をさっとゆでるとぬめりがでておいしい。酢みそ合えやサラダにも、土手や、森の縁などに生える美しい緑色の野草

立坪草

(タチツボスミレ)

森の中で一番多くみられるスミレハートの形が特徴的

萱草とベーコンしめじのオイルパスタ

ニの白い部分がとくにおいしい♪

ミニマフィン

クッキー

カキトオシ入り

サンドイッチ

生菜のままで卵サンドやアボガトディップに入れて♪

スミレの花の砂糖漬け

タチツボスミレ、ニオイスミレなどのスミレを卵白にひたす。その後、砂糖をまがいて乾燥させたり、できあがり。そのまま食べたり、クッキーやマフィンにそえると可愛いお菓子のできあがり♪

小豆通し

(カキトオシ)

ひらひらの森や駐車場、里子原などよくみられる野草。摘むとミントのような香りが特徴的♪